

第 25 回アンケート結果（抜粋）

4. 一般講演 4：『知識・技術・技能』から見た健康と運動に関する考察－登山の場合－

1. 面白い発表でした。

⇒ありがとうございました。これまでの発表とは雰囲気が違う内容でしたが、「自分の身近な話題を通じて『知識・技術・技能』を考えてみる」というアプローチも良いのではないかと考えました。

2. 最近では登山もずいぶん素人化していると聞いています。これを技能の観点で見れば、業界が登山技能を何らかの取り組みで下げた、解明した、良い対処法を考案したと捉えられると感じました。これについて、登山の場合のご見解をいただければと思います（他の業界でも活かせるかもしれません）。

⇒たいへん貴重なご指摘ありがとうございました。日本における登山の歴史的経緯をみますと、古くは大学の山岳部や社会人の山岳会が登山技能の習得・伝承を担ってきました。しかし、近年では山岳会に加入する人はごく僅かであり（※）、組織的な活動を敬遠する向きがあります。一方で、インターネット（SNS、ブログなど）・書籍・雑誌・テレビ番組・DVD などを通じて初心者向けの各種情報が数多く発信されており、登山講習会や研修型ツアーへの参加者も増加傾向にあることから、登山技能の習得に対するニーズは高まっているものと思います。ところが、山岳遭難の最も多い原因が「道迷い」であること、および中高年者の遭難件数が年々増加していることを考慮すると、「登山の素人化・高齢化」に対する登山技能の貢献度は相対的に低下しており、むしろ高品質化・軽量化・高級化・高ファッション化が進んでいる登山装備の貢献度が飛躍的に上昇しているものと考えます。今後は登山技能（知識・技術含む）に対する学校教育の充実や登山関連資格の普及、ガイド資格の統一化（技量や制度の統一基準など）、ツアー等における法的責任の明確化、報酬面の改善などを進める必要があると思います。2016年から施行される「山の日」（毎年8月11日）を機会に、登山の楽しさや安全性などに対する国民意識の高まりを期待したいと思います。

※長野県の調査（2014年）

加入者は全体の15.9%。登山者の半数以上（54.7%）が「加入したくない」と回答。

3. 登山を甘く考えていたのですが、考えが変わりました。

⇒日本では登山が身近なスポーツ（またはレジャー）として定着しております。「自然」と直接向き合うことで心身の鍛錬にも効果がありますが、遭難リスクが存在していることも事実です。ご自身の体力や経験、天候などに配慮して、楽しい登山を心がけていただければ幸いです。